

# 高砂香料工業株式会社

## 2026年3月期 第2四半期（上期）決算説明会

証券コード:4914

2025年11月26日

# 目次

- I. 事業概況(ハイライト)
- II. 2026年3月期 第2四半期業績
- III. 2026年3月期 通期業績予想
- IV. ファインケミカル事業の成長戦略
- V. Appendix

# I. 事業概況(ハイライト)

# 2026年3月期 第2四半期 事業概況および業績

## 【2026年3月期 2Q】 事業概況

- 主要原材料価格は、期首想定とほぼ同水準で安定推移
- 日本で飲料関連が堅調に推移。東南アジア・中国では飲料関連やファブリックケア関連の出荷が堅調に推移
- ファインケミカルでは、主要顧客との間で品質管理体制の高度化対応を行っており、海外医薬品中間体の出荷が延期
- 米国子会社では2024年3月期に新基幹システム導入後、2025年3月期に増加した出荷の反動で売上が減少
- フランス子会社で新基幹システム導入に伴う出荷調整によりフレグランスの出荷が減少

## 【2026年3月期 2Q】 業績

[単位：億円]	2025/3 2Q	2026/3 2Q	通期見通し (5月開示)	前期比	通期計画 進捗率	主な増減要因
売上高	1,136	1,145	2,300	+0.8%	+49.8%	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日本では飲料関連の出荷が増加</li><li>・ 東南アジア・中国で飲料関連、ファブリックケア関連の出荷が増加</li><li>・ 米国子会社でフレーバー・フレグランス・ファインケミカルの出荷が減少</li></ul>
営業利益	80	62	125	△22.4%	+49.7%	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 欧米向け医薬品中間体の輸出減により、日本で減益</li><li>・ 米国子会社では減収に伴い減益</li></ul>
経常利益	69	67	130	△2.4%	+51.8%	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外貨建て債権債務の評価替えは前期比で改善</li></ul>
当期純利益	49	54	117	+10.2%	+46.1%	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 投資有価証券売却益の計上により前期比で増益</li></ul>
期中平均 為替レートUSD	152	149	150	△2.4%	-	
期中平均 為替レートEUR	165	162	160	△1.5%	-	

# 2026年3月期 第2四半期 市場評価に関連する取り組み

## 【2026年3月期 2Q】市場評価の向上

### PBR

株価上昇に伴い、  
第二四半期決算期末時点で1倍を超える水準まで回復

### 成長投資

磐田工場の医薬品中間体生産設備の増設工事完了、  
国内鎌倉新研究所に向けた土地取得

### 配当

期末配当予想を24円から28円に増額  
中計目標を上回る配当性向43%、DOE3.4%

### 株式分割

1株につき5株の割合で株式を分割  
投資家の皆様がより投資しやすい環境を整備

### 開示

開示情報の充実  
(スポンサードレポートの発行開始、四半期決算説明補足資料の開始、統合報告書の更新)

### 対話

中長期保有を志向する国内及び海外投資家を中心に面談

## II. 2026年3月期 第2四半期業績

# 2026年3月期 第2四半期業績

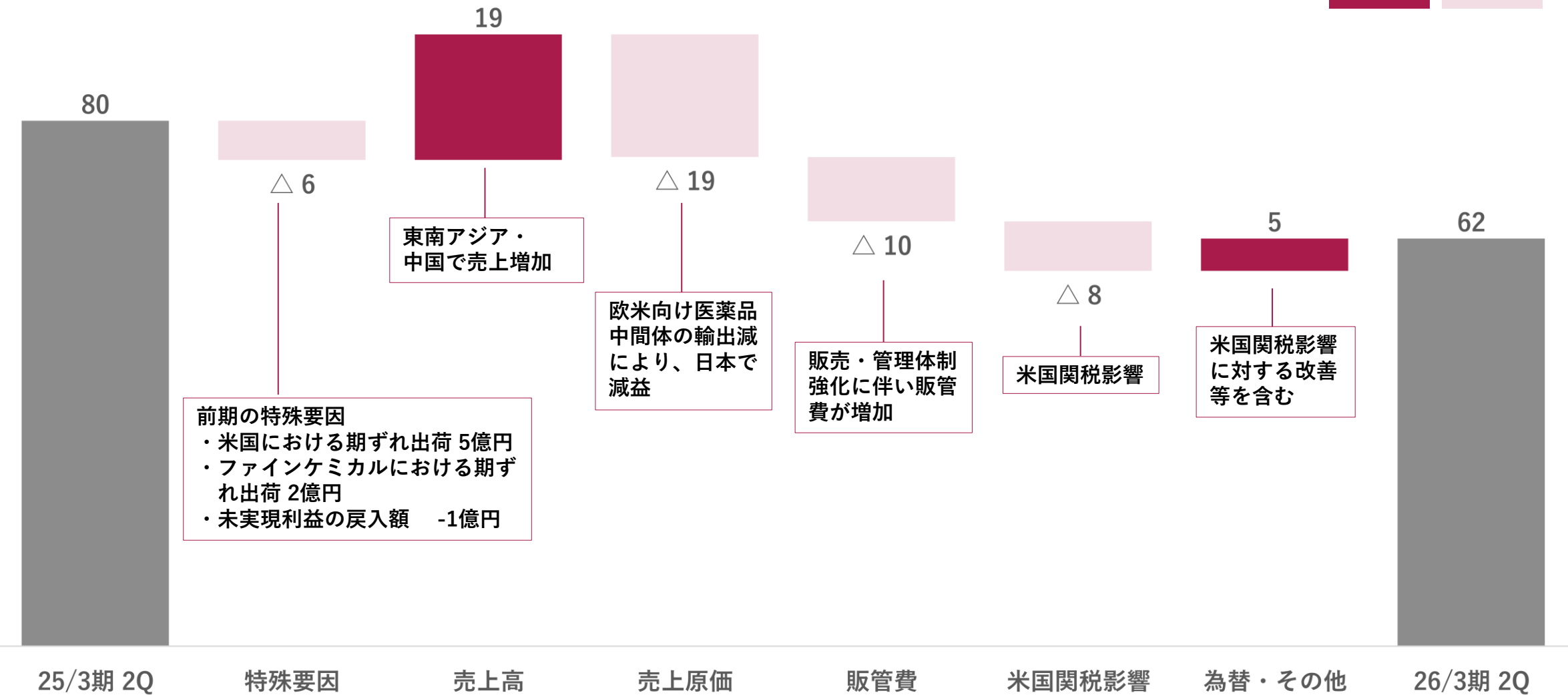
[単位：億円]	2025/3 2Q	2026/3 2Q	通期見通し (5月開示)	前期比	通期計画 進捗率
売上高	1,136	1,145	2,300	+0.8%	+49.8%
売上総利益	391	376	777	△3.9%	+48.4%
売上総利益率	34.4%	32.8%	33.8%	△1.6P	-
販売管理費	311	314	652	+0.8%	+48.1%
販売管理費率	27.4%	27.4%	28.3%	+0.0P	-
営業利益	80	62	125	△22.4%	+49.7%
営業利益率	7.0%	5.4%	5.4%	△1.6P	-
経常利益	69	67	130	△2.4%	+51.8%
経常利益率	6.1%	5.9%	5.7%	△0.2P	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	49	54	117	+10.2%	+46.1%
純利益率	4.3%	4.7%	5.1%	+0.4P	-
期中平均為替レート USD	152	149	150	△2.4%	-
期中平均為替レート EUR	165	162	160	△1.5%	-

主な変動要因
売上高
■ 1,145億円(前期比+0.8%)
● 日本では飲料関連の出荷が増加
● 東南アジア・中国で飲料関連、ファブリックケア関連の出荷が増加
● 米国子会社でフレーバー・フレグランス・ファインケミカルの出荷が減少
営業利益
■ 62億円(前期比△22.4%)
● 欧米向け医薬品中間体の輸出減により、日本で減益
● 米国子会社では減収に伴い減益
経常利益
■ 67億円(前期比△2.4%)
● 外貨建て債権債務の評価替えは前期比で改善
当期純利益
■ 54億円(前期比+10.2%)
● 投資有価証券売却益の計上により前期比で増益

# 営業利益の増減分析

[単位：億円]

増益 減益





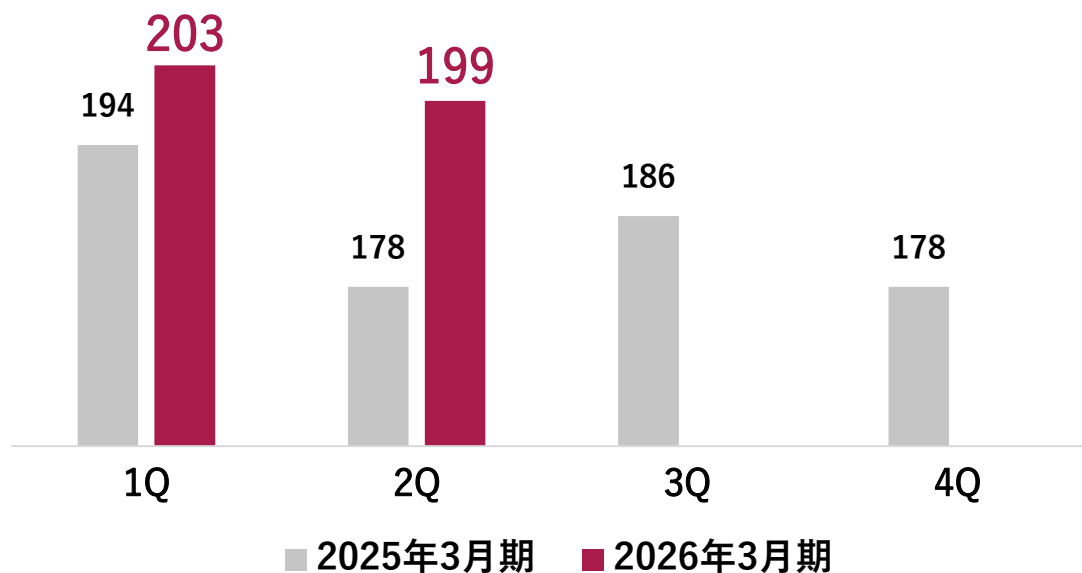
# 地域セグメント

[単位：億円]		2025/3 2Q	2026/3 2Q	通期見通し (5月開示)	前期比	通期計画 進捗率	主な変動要因
日 本	売上高	372	402	738	+31	+54.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲料関連等が堅調に推移</li> <li>医薬品中間体の米国子会社向け輸出の減少により売上総利益が減少</li> </ul>
	営業利益	40	9	25	△ 31	+33.6%	
米 州	売上高	336	289	651	△ 46	+44.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧米向け医薬品中間体の出荷が減少</li> <li>米国子会社でフレーバー・フレグランスの出荷が減少</li> </ul>
	営業利益	19	11	30	△ 8	+36.8%	
欧 州	売上高	196	205	400	+8	+51.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>フレーバー、アロマイングリディエーツが堅調</li> <li>フランス子会社で新基幹システム導入に伴う出荷調整によりフレグランスの出荷が減少</li> </ul>
	営業利益	13	10	17	△ 3	+59.9%	
ア ジ ア	売上高	232	249	511	+16	+48.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジア、中国で飲料関連やファブリックケア関連の出荷が増加</li> </ul>
	営業利益	19	32	53	+13	+60.4%	
調 整	売上高	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期はセグメント間取引に係る米国子会社の製品在庫増により未実現利益の消去額が増加</li> </ul>
	営業利益	△ 10	1	0	+11	+0.0%	
合 計	売上高	1,136	1,145	2,300	+9	+49.8%	
	営業利益	80	62	125	△ 18	+49.7%	

# 地域セグメント（日本）

## 売上高

[単位：億円]

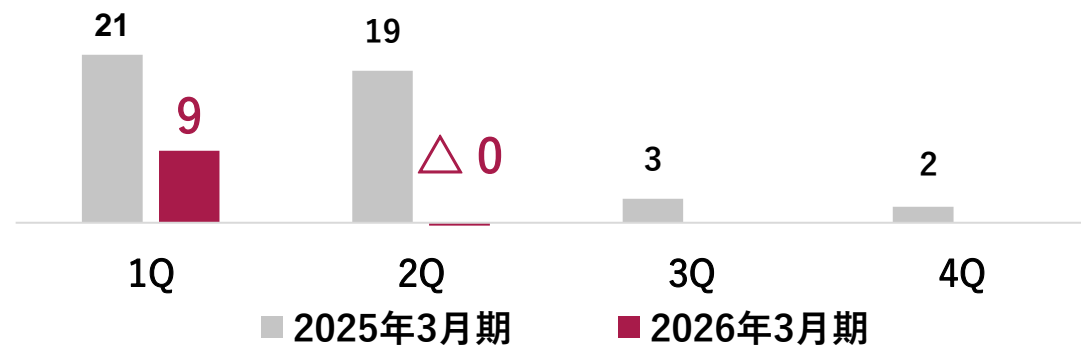


### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：季節性要因によりフレーバー事業の一部飲料フレーバーが減収  
対前期2Q：主にフレーバー事業が前期比で好調に推移

## 営業利益

[単位：億円]



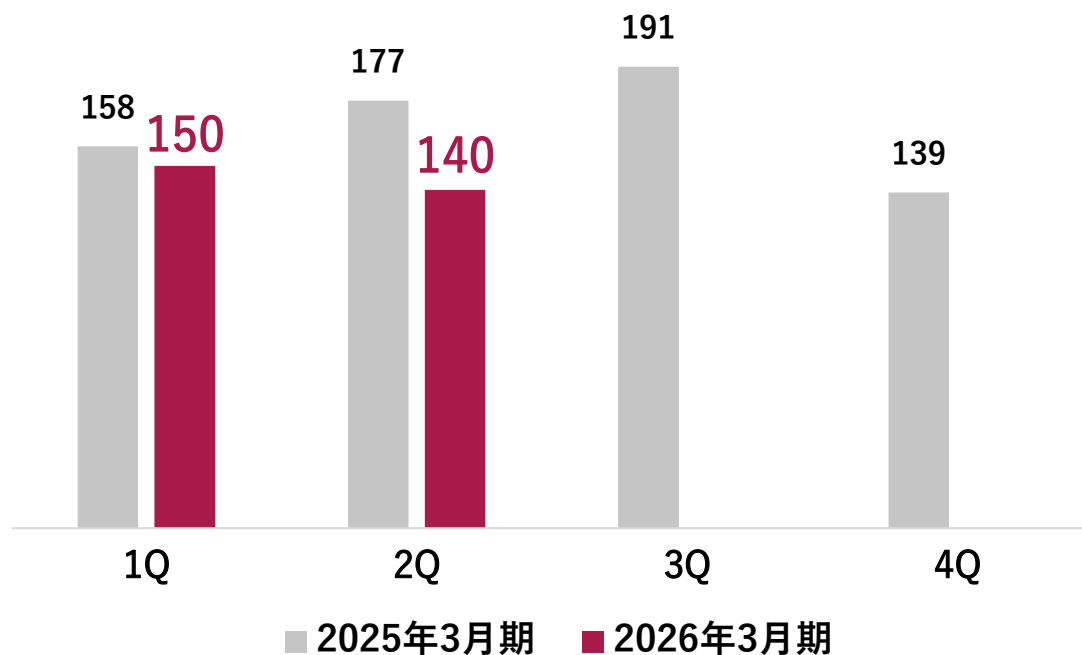
### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：アロマイングリディエーツ事業において、8月夏季休暇時の稼働低下により利益低下。  
ファインケミカル事業の売上減少に伴う利益減少  
対前期2Q：ファインケミカル事業の売上減少等

# 地域セグメント（米州）

## 売上高

[単位：億円]

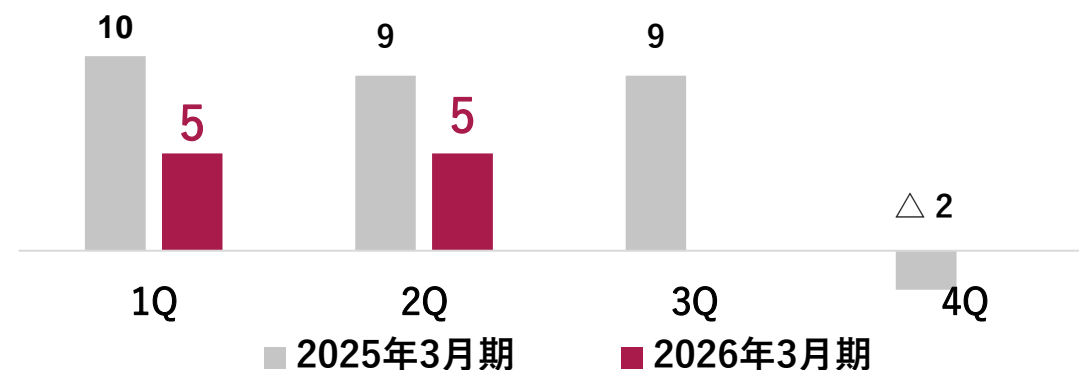


### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：フレグランス事業が堅調に推移したものの、海外医薬品中間体の出荷延期の影響で減収  
対前期2Q：海外医薬品中間体の出荷延期に加え、フレーバー事業の出荷減少の影響で減収

## 営業利益

[単位：億円]



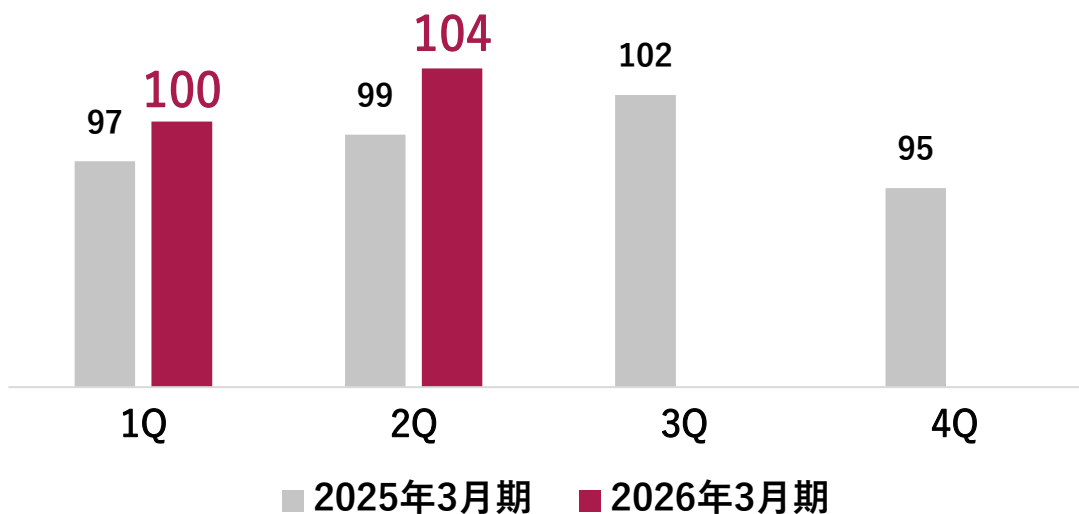
### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：米州のファインケミカル事業は販社の役割のため、減収による利益面の影響は限定的  
対前期2Q：フレーバー事業の減収により限界利益が減少

# 地域セグメント（欧州）

## 売上高

[単位：億円]

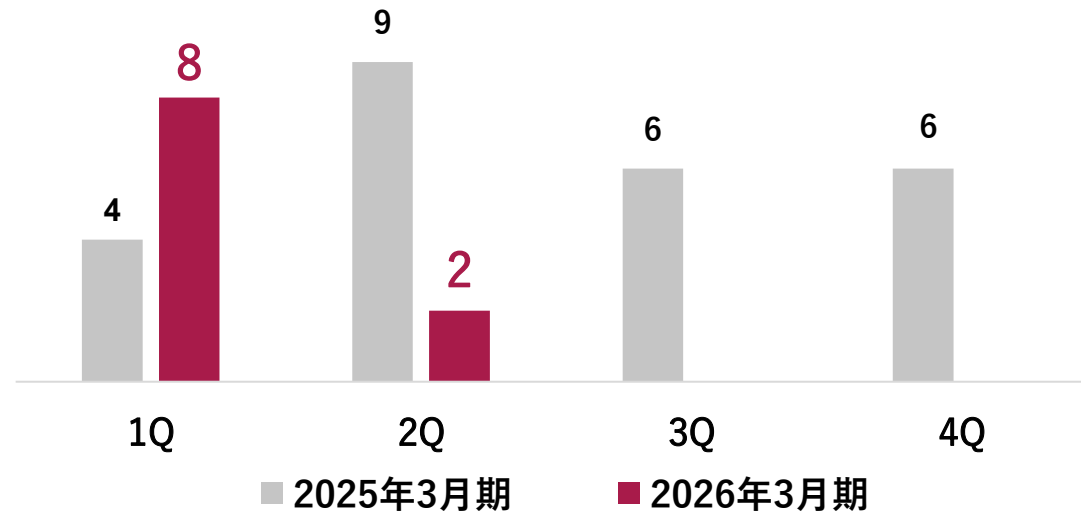


### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：フレーバー事業が堅調に推移  
対前期2Q：フレーバー事業が堅調に推移

## 営業利益

[単位：億円]



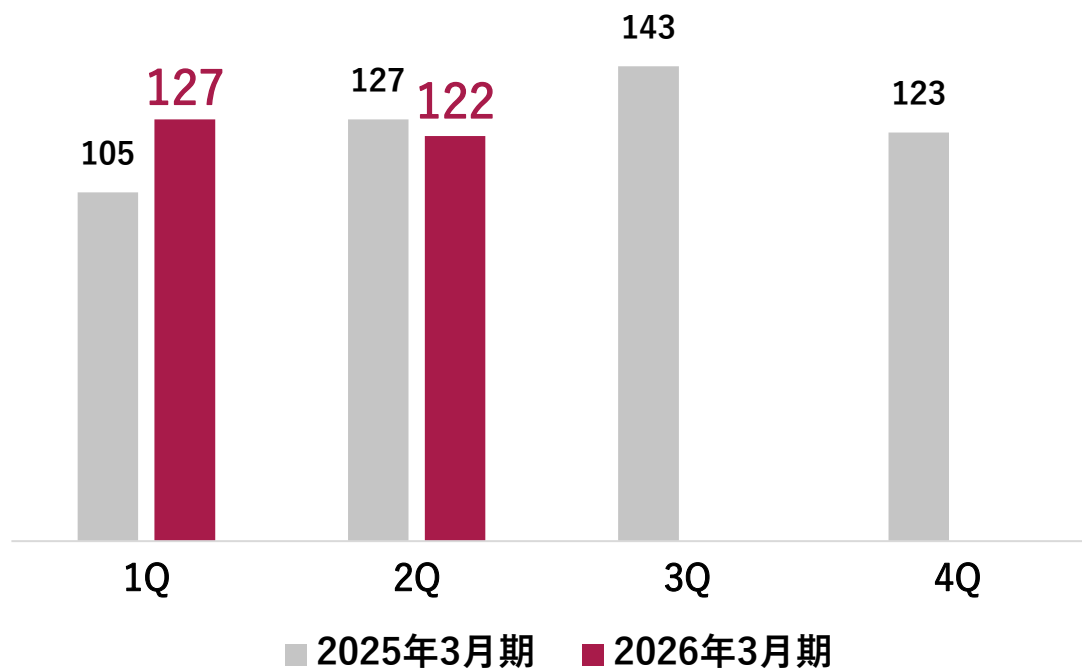
### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：新基幹システム導入に伴うコスト増等により減益  
対前期2Q：新基幹システム導入に伴うコスト増等により減益

# 地域セグメント（アジア）

## 売上高

[単位：億円]

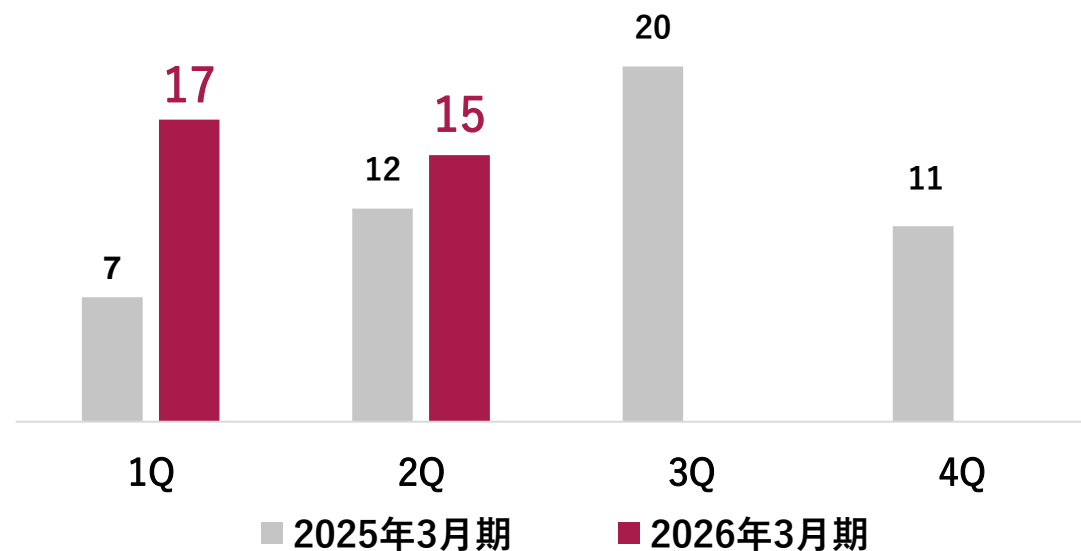


### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：中国が堅調に推移した一方、東南アジアが一部顧客で減少  
対前期2Q：中国が堅調に推移した一方、東南アジアが一部顧客で減少

## 営業利益

[単位：億円]



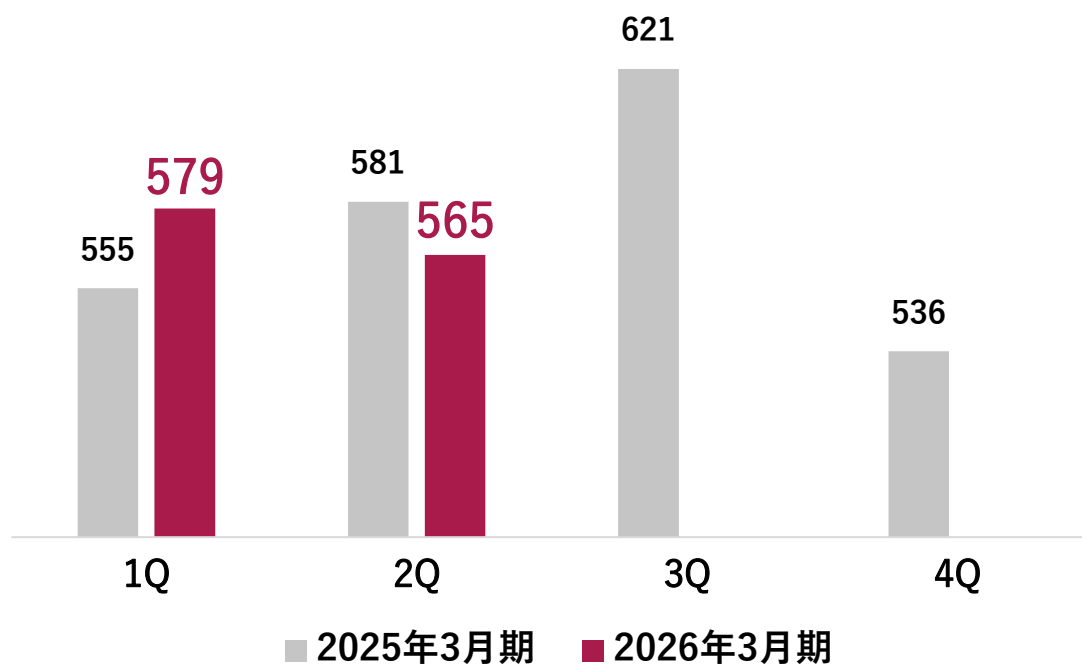
### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：売上減少により限界利益が減少  
対前期2Q：製品構成・販売価格・原材料の最適化により利益率改善

# 四半期決算推移

## 売上高

[単位：億円]

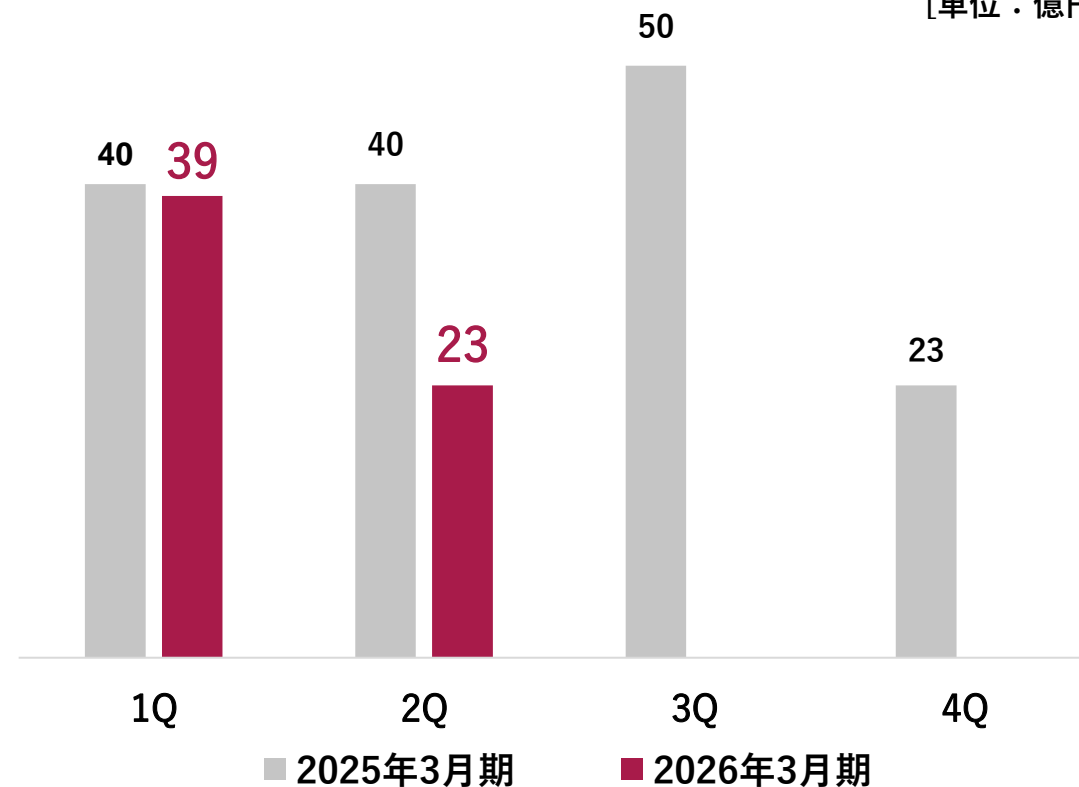


### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：米州のファインケミカル事業の出荷延期の影響により減収  
対前期2Q：米州の不調により減収

## 営業利益

[単位：億円]



### 2Qの 主な変動 要因

対今期1Q：日本のファインケミカル事業およびアロマイングリディエント事業の減速、欧州の新基幹システム導入影響  
対前期2Q：同上

# 事業セグメント

[単位：億円]		2025/3 2Q	2026/3 2Q	通期見通し (5月開示)	前期比	通期計画 進捗率	主な変動要因
フ レ ー バ ー	売上高	607	634	1,233	+27	+51.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本で飲料関連の出荷が増加</li> <li>東南アジア、中国で飲料関連の出荷が増加</li> </ul>
	営業利益	30	43	64	+13	+66.0%	
フレグランス	売上高	364	363	759	△ 1	+47.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国子会社での出荷が減少</li> <li>アジアでファブリックケア関連の出荷が増加</li> <li>フランス子会社で新基幹システム導入に伴う出荷調整により出荷が減少</li> </ul>
	営業利益	6	6	11	△ 0	+57.3%	
アロマイング リディエーツ	売上高	80	82	150	+1	+54.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本では猛暑により冷感製品の出荷が増加</li> </ul>
	営業利益	14	14	17	△ 0	+79.4%	
フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	売上高	77	59	144	△ 18	+41.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要顧客との間で品質管理体制の高度化対応を行っており、海外医薬品中間体の出荷が延期</li> </ul>
	営業利益	24	△ 6	22	△ 30	△ 27.9%	
そ の 他	売上高	7	7	14	△ 0	+48.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他の収益は、その他不動産事業に係る賃貸収入等で構成されており、変動なし</li> </ul>
	営業利益	6	6	11	△ 0	+52.5%	
合 計	売上高	1,136	1,145	2,300	+9	+49.8%	
	営業利益	80	62	125	△ 18	+49.7%	

2026年3月期 第2四半期実績（単体 事業セグメント）

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2025/3 2Q	2026/3 2Q	前期比	2025/3 2Q	2026/3 2Q	前期比
フ レ ー バ ー	225	243	+7.9%	△ 2	7	-
フ レ グ ラ ン ス	43	45	+2.8%	△ 4	△ 6	-
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	64	65	+1.2%	13	6	△54.5%
フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	91	35	△61.8%	23	△ 8	△135.5%
そ の 他	9	9	△0.0%	6	6	△4.1%
合 計	432	395	△8.4%	36	5	△86.9%
主 変 動 要 因	フ レ ー バ ー	飲料等が好調に推移				
	フ レ グ ラ ン ス	ランドリーケア等が好調に推移したものの、製造コスト高止まりにより収益性は改善されず				
	ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	一部主要原料の価格上昇等により製造コストが増加				
	フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	主要顧客との間で品質管理体制の高度化対応を行っており、海外医薬品中間体の出荷が延期				
	そ の 他	不動産賃貸事業に係る賃貸収入等で構成				



# III. 2026年3月期 通期業績予想

# 為替の前提、感応度

## 為替の前提

	2025/3 通期実績	2026/3 通期予想	前期比
USD	152円	148円	△4円
EUR	164円	168円	+ 4円

## 為替の感応度（1円円高／円安のケース）

	売上高に対する影響	営業利益に対する影響
USD	約6億円減収／増収	約19百万円減益／増益
EUR	約3億円減収／増収	約4百万円減益／増益

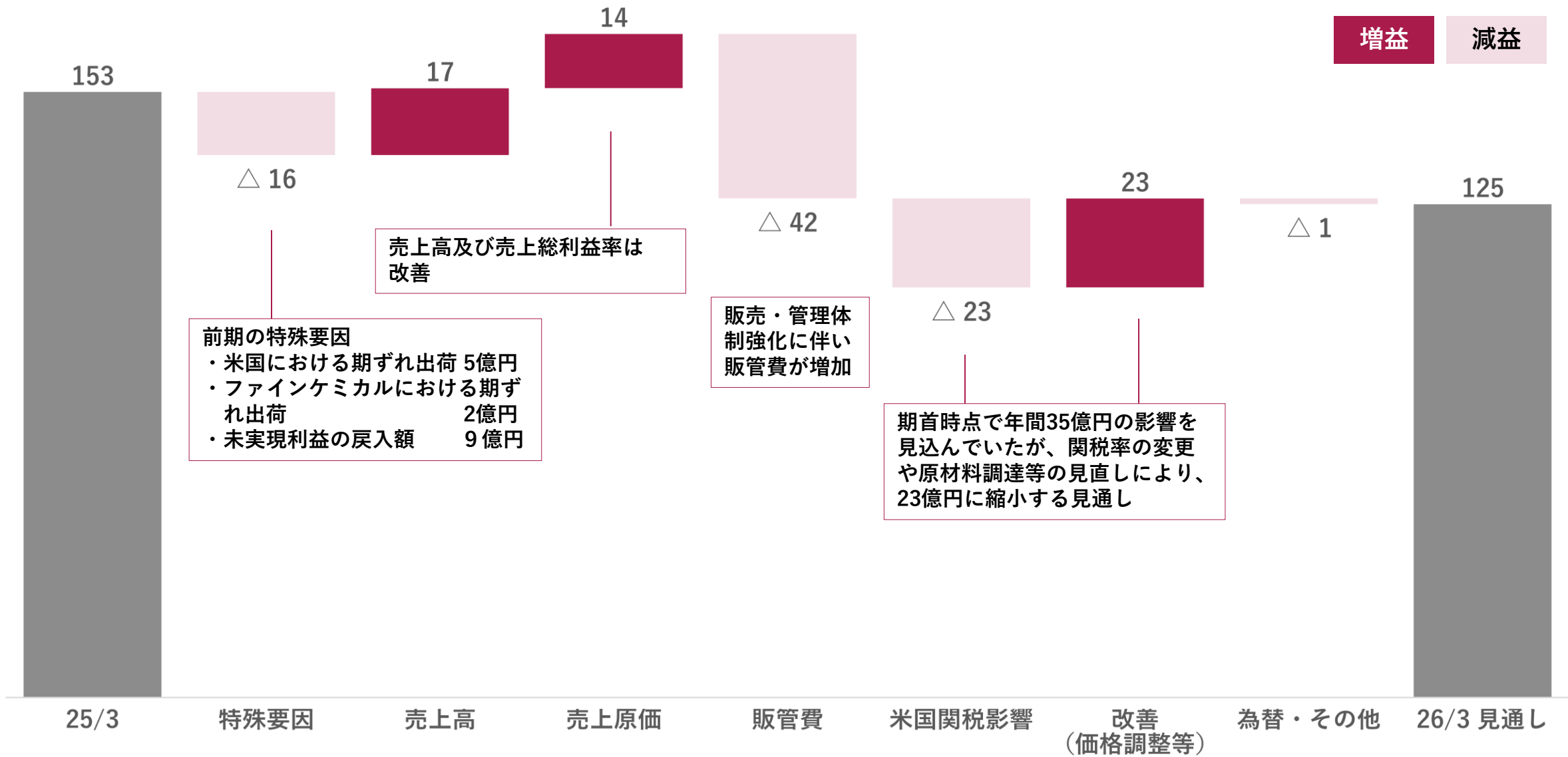
# 2026年3月期 通期業績予想

	2025/3	2026/3 予想 (2025/11/時点)	前期比
[単位：億円]			
売上高	2,292	2,300	+0.3%
営業利益 営業利益率	153 6.7%	125 5.4%	△18.5% △1.3P
経常利益	153	130	△15.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	133	117	△12.2%
E B I T D A	235	215	△8.3%
R O E	9.8%	8.0%	△1.8P
期中平均為替レート USD	152円	148円	△4円
期中平均為替レート EUR	164円	168円	+4円

主な変動要因
売上高 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 日本で飲料関連の出荷が増加</li><li>■ 中国で飲料関連、ファブリックケア関連の出荷が増加</li><li>■ 米国子会社でフレーバー・フレグランス・ファインケミカルの出荷が減少</li></ul>
営業利益 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 欧米向け医薬品中間体の輸出減により、日本で減益</li><li>■ 米国子会社では減収に伴い減益</li></ul>
経常利益 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 外貨建て債権債務の評価替えは前期比良化</li></ul>
ROE <ul style="list-style-type: none"><li>■ 営業利益減少により前期比低下</li></ul>

# 営業利益の増減分析

[単位：億円]



# 地域セグメント

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2025/3	2026/3予想	前期比	2025/3	2026/3予想	前期比
日 本	736	738	+0.3%	45	25	△43.4%
米 州	665	651	△2.1%	26	30	+15.1%
欧 州	393	400	+1.8%	25	17	△32.6%
ア ジ ア	498	511	+2.5%	49	53	+8.0%
調 整	-	-	-	9	-	-
合 計	2,292	2,300	+0.3%	153	125	△18.5%
主 要 な 変 動 因	日 本	売上高は堅調に推移。欧米向け医薬品中間体の輸出減少により減益				
	米 州	米国子会社で出荷減少。中南米子会社では販売増加により増益				
	欧 州	フレーバー、アロマイングリディエントの販売増加。フレグランスの出荷調整が入り減益				
	ア ジ ア	中国におけるフレーバー、フレグランスの出荷増加。東南アジアにおける原材料費率改善を主因に増益				
	調 整 ・ そ の 他	2025年3月期の9億円は、連結決算上の未実現利益消去の期首戻入額				

# 地域セグメント(上期vs下期)

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2026/3 上期	2026/3 下期	上期比	2026/3 上期	2026/3 下期	上期比
日 本	402	336	△16.5%	9	16	+93.8%
米 州	289	362	+25.0%	11	19	+74.6%
欧 州	205	195	△4.4%	10	7	△28.0%
ア ジ ア	249	262	+5.4%	32	21	△35.7%
調 整	-	-	-	1	△1	-
合 計	1,145	1,155	+0.9%	62	63	+1.3%
主 要 変 動 因	日 本	季節性要因等によるフレーバー、アロマイングリディエントの出荷減少により減収 欧米向け医薬品中間体の輸出により増益				
	米 州	米国子会社、中南米子会社におけるフレグランス出荷増加を主因に増収増益				
	欧 州	フランス子会社における出荷調整等の影響で減収減益				
	ア ジ ア	売上堅調。製造経費の増加を主因に減益				
	調 整 ・ そ の 他	-				

# 事業セグメント

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2025/3	2026/3予想	前期比	2025/3	2026/3予想	前期比
フ レ ー バ ー	1,198	1,233	+2.9%	52	64	+23.9%
フ レ グ ラ ン ス	745	759	+1.9%	20	11	△47.4%
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	157	150	△4.4%	26	17	△33.5%
フ    ア    イ    ン ケ    ミ    カ    ル	178	144	△19.3%	44	22	△50.9%
そ            他	14	14	+2.1%	12	11	△7.0%
合            計	2,292	2,300	+0.3%	153	125	△18.5%
主  な  変  動  因	フ    レ    ー    バ    ー	日本、中国における飲料向け出荷増加により増収増益				
	フ    レ    グ    ラ    ン    ス	中南米子会社で出荷増加。フランス子会社における新基幹システム関連費用増により減益				
	ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	国内、海外とも販売堅調だが前期比ではやや減少。主要原料高騰の影響で減益				
	フ    ア    イ    ン    ケ    ミ    カ    ル	主要顧客との間で品質管理体制の高度化対応中、海外医薬品中間体の出荷延期により減収減益				

# 事業セグメント(上期vs下期)

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2026/3 上期	2026/3 下期	上期比	2026/3 上期	2026/3 下期	上期比
フ レ ー バ ー	634	599	△5.5%	43	22	△48.4%
フ レ グ ラ ン ス	363	396	+9.1%	6	4	△25.6%
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	82	68	△16.2%	14	4	△74.0%
フ   ア   イ   ン ケ   ミ   カ   ル	59	85	+43.0%	△6	28	-
そ   の   他	7	7	+4.4%	6	5	△9.6%
合   計	1,145	1,155	+0.9%	62	63	+1.3%
主   な   変   動   因	フ   レ   ー   バ   ー	日本における季節性要因により出荷減少。アジアにおける製造経費増加等の影響で減益				
	フ   レ   グ   ラ   ン   ス	米州で出荷増加。欧州における出荷調整および新基幹システム償却費の発生等により減益				
	ア   ロ   マ   イ   ン   グ   リ デ   ィ   エ   ン   ツ	日本における季節性要因によりメントール、冷感製品の出荷減少。減収減益				
	フ   ア   イ   ン   ケ   ミ   カ   ル	欧米向け医薬品中間体の出荷により増収増益				



# 設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位：億円]

	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3予想 (2025/11時点)
設 備 投 資	82	105	118	130
減 価 償 却 費	74	79	81	90
研 究 開 発 費	142	157	177	190

売 上 高 研 究 開 発 費 率	7.6%	8.0%	7.7%	8.3%
----------------------	------	------	------	------

主 要 な 変 動 因	設 備 投 資	欧州子会社における新基幹システム導入費用を中心に海外投資額が増加
	減 価 償 却 費	磐田工場の医薬品中間体生産設備、海外拠点における新基幹システムの稼働に伴い増加
	研 究 開 発 費	海外拠点の人員増強により増加

## IV. ファインケミカル事業の成長戦略

# ファインケミカル事業の進化と沿革

## 事業のあゆみ

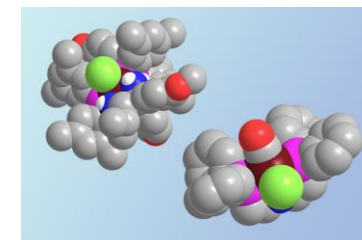
### ■ L-メントール 不斉合成法の工業化 (1983年 - )

- 触媒技術 (ロジウム-BINAP)
- 連続フロー技術
- L-メントールの原料であるミルセンを活用した医薬品中間体, 農薬中間体の製造



### ■ 触媒技術を強みにファインケミカル事業を積極展開

- ルテニウム-BINAP 触媒による不斉水素化技術:  
キラルな医薬品中間体製造 (1992年 - )
- カップリング反応技術:
- OPC などの機能性材料製造 (2002年-)



### ■ 連続フロー技術での医薬品中間体 GMP 製造 (2015年-)

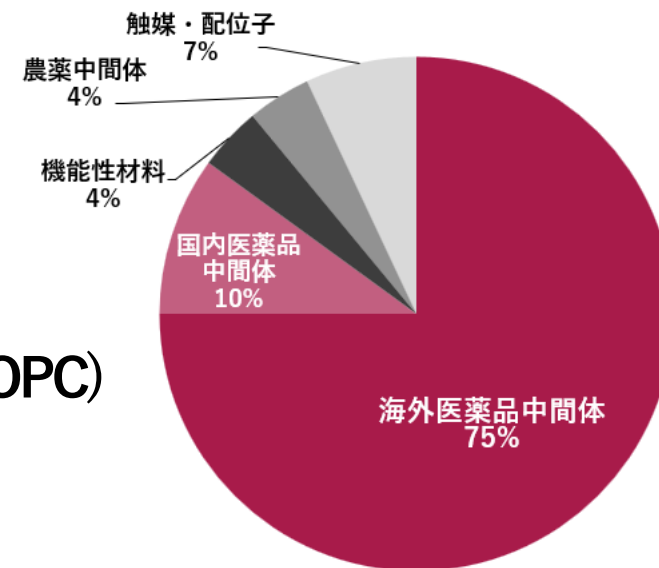
# ファインケミカル事業の価値提供と製品ポートフォリオ

香りを起点とする合成技術で

「人々の生活の質向上」 「環境負荷軽減」 に貢献します

## 製品ポートフォリオ

- 医薬品中間体: 先発医薬品が最終商材  
医薬品原薬の製造における中間化合物を販売
- 農薬中間体: 害虫発生防止、駆除薬などが最終商材  
農薬原体の製造における中間化合物を販売
- 機能性材料: コピー機、プリンターなどイメージングに関する化合物 (OPC)  
半導体製造に不可欠な化合物 (レジストモノマー)
- 触媒・配位子: 医薬品、農薬、機能性材料などの製造用



2025年3月期

# 医薬品中間体市場の成長機会

## 医薬品中間体市場

- 世界の医薬品市場は継続して成長
- 創薬モダリティーの多様化が進むものの低分子医薬品の市場は伸長
- 中間体製造プロセスへの期待
  - ・ グリーンサステナブルケミストリー
  - ・ 連続フロー技術

# ファインケミカル事業の差別化戦略と技術力

## 差別化集中戦略: 「顧客価値の向上」、「合成技術」で競争優位性を確立

### ■ 顧客価値の向上: 顧客が評価する価値の提供

市場起点、顧客起点…顧客の(潜在的)課題を理解、解決

- ・ きめ細かなサービス
- ・ サプライセキュリティ
- ・ 新規案件の遂行、管理能力

### ■ 合成技術:

◆ 触媒技術: 新規触媒開発、触媒を鍵とする製法開発、触媒の製造・販売

- ・ グリーンサステナブルケミストリーに寄与

◆ 連続フロー技術: 効率性、安全性、品質

- ・ 100MT 以上の製造実績

# ファインケミカル事業成長を支える設備投資の取り組み

## 成長投資の歴史

100L PFR  
(掛川工場)

2013年

2014年

200L PFR  
20L CSTR

CSTR 棟新設：  
200L CSTR  
30, 50L 連続抽出設備

2015年

2工場製品棟  
新設

2017年

2018年

10, 70L CSTR  
(LAH 還元)、  
連続濾過設備



プロセス開発  
研究棟 新設

2021年

2022年

触媒供給体制  
強化

2025年

磐田工場 1工場新設  
投資金額：80億円  
用途：GMP中間体製造



PFR: Pipe Flow Reactor(パイプフロー反応器)

CSTR: Continuous Stirred Tank Reactor(連続攪拌型反応器)

LAH還元: リチウムアルミニウムハイドライド還元(有機合成で用いる還元反応)

# Move Forward





# 本日は、ありがとうございました。

## ※注意事項

本資料は、2025年11月26日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：IR/広報室

TEL: 03-5744-0523 FAX:03-5744-0512

<https://www.takasago.com>

E-mail: [ir@takasago.com](mailto:ir@takasago.com)

# V. Appendix

# 創業精神・企業理念・Vision 2040

## 創業精神

技術立脚の精神の則り社会に貢献する

## 企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、  
新しい価値を創造し続ける

## Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

## Vision 2040





### NGP-2

基本方針	海外の成長	国内の収益改善	サステナブルな経営
Key Success Factors	<ul style="list-style-type: none"><li>事業軸の成長戦略</li><li>新規顧客の開拓</li><li>売上総利益の拡大</li><li>海外サプライチェーンの最適化</li><li>先端科学による競争力のある技術の創成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>売上総利益の最適化</li><li>費用の構造改革</li><li>新領域の開拓</li><li>フレーバー・フレグランス製品生産効率性の追求</li><li>合成事業生産体制の再構築</li><li>国内サプライチェーンの最適化</li><li>先端科学による競争力のある技術の創成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Sustainability2030の実行</li><li>コーポレート基盤の強化</li><li>人的資本の価値最大化</li><li>業務遂行力の向上</li><li>SDGsへの貢献を意識した製品の開発</li></ul>

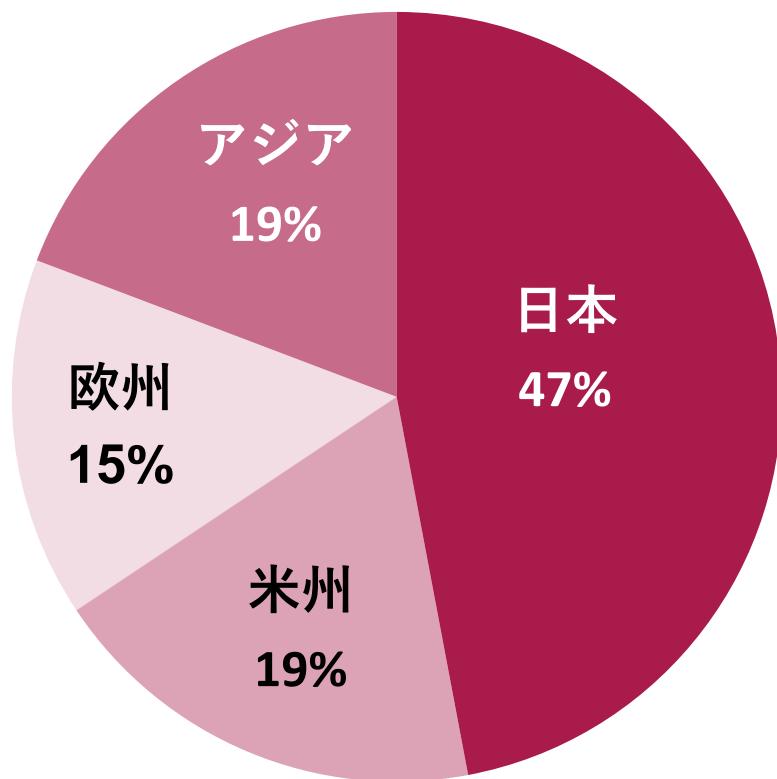
# 各事業の特徴

	フレーバー	フレグランス	アロマ イングredients	ファイン ケミカル
製品用途	飲料、製菓、スープ、 デザート等食品全般	衣料用洗剤・柔軟剤、 化粧品、芳香剤等	香料の原料 (フレーバー、 フレグランス)	医薬品中間体、 機能性材料、触媒、 農薬中間体
主要顧客	食品メーカー	日用品メーカー 化粧品メーカー	同業他社、自社使用	医薬品メーカー 電機電子メーカー
競合先	香料会社(同業)等	香料会社(同業)等	香料・化学メーカー、 天然品市場(メントール)	化学メーカー等

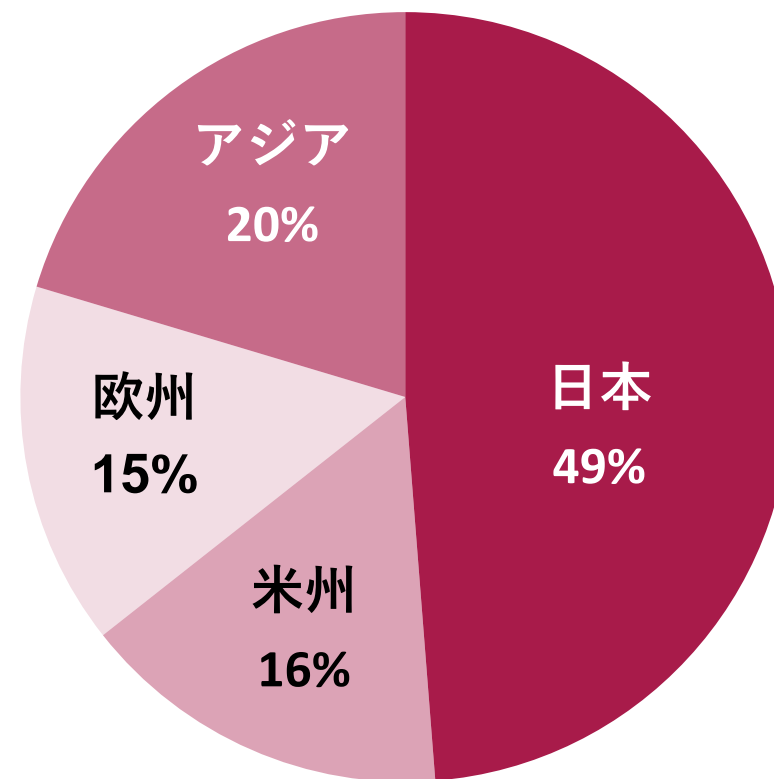
# 4つの事業の成長

事業	方針、施策
<b>フレーバー</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業戦略や設備・研究投資を通じて、新規顧客の獲得や新興国でのビジネス拡大</li> <li>製品ポートフォリオ適正化により、収益性の改善</li> <li>各地域でのニーズを満たす素材/製品開発とグローバル連携による競争力を強化</li> </ul>
<b>フレグランス</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>人的/技術のグループ内連携や設備・研究投資を通じて、パーソナルケアに注力</li> <li>東南アジア、中南米、インドなど新興国でのビジネスを拡大</li> <li>原材料費や製造経費におけるマネジメント力を強化推進</li> <li>事業基盤の強化（人材、R&amp;D、Consumer Insights &amp; Market Research）</li> </ul>
<b>アロマ イングリディエント</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産業分野などの新領域、新興国での既存ビジネス拡大</li> <li>付加価値の高いスペシャリティ製品の拡充により収益性の改善</li> <li>生分解性やバイオベース値などに配慮し、環境にやさしい新規品の開発</li> </ul>
<b>ファインケミカル</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品中間体カテゴリーの拡大</li> <li>新工場設備稼働による製品供給能力の強化</li> <li>触媒技術や連続フロー技術の深化により競争力の向上</li> </ul>

# フレーバー事業 地域別 売上実績

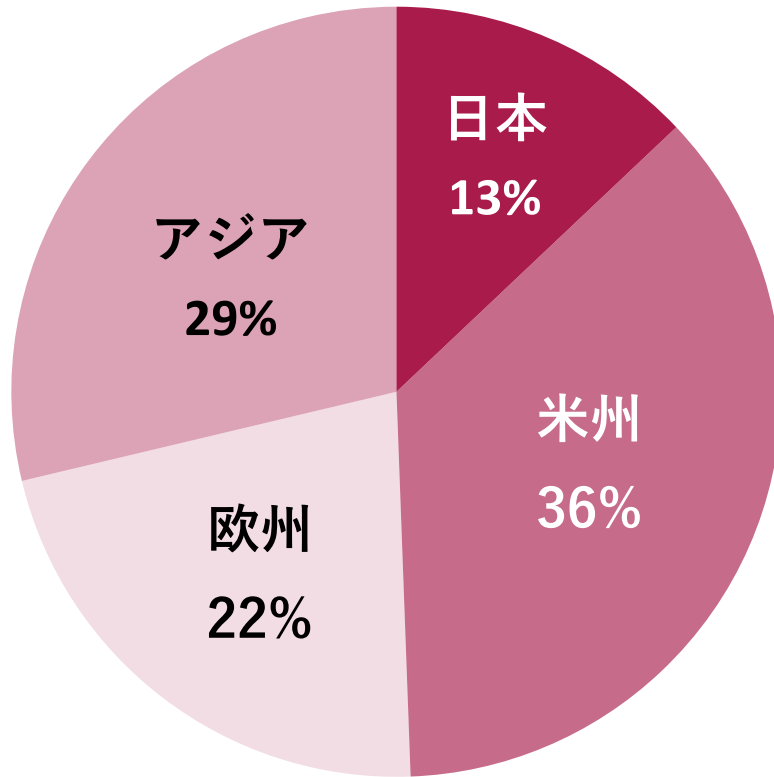


2025年3月期2Q

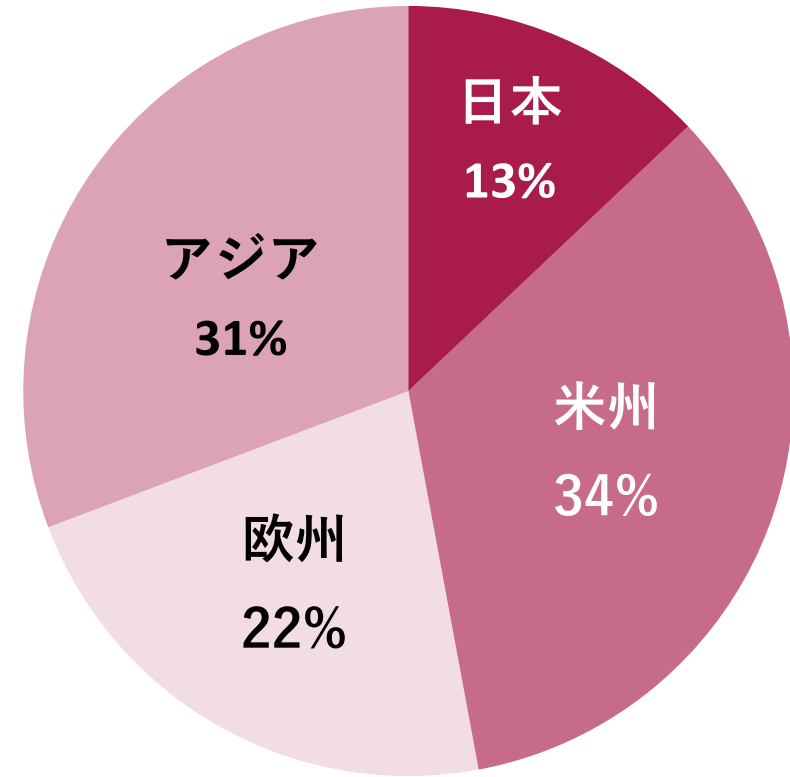


2026年3月期2Q

# フレグランス事業 地域別 売上実績



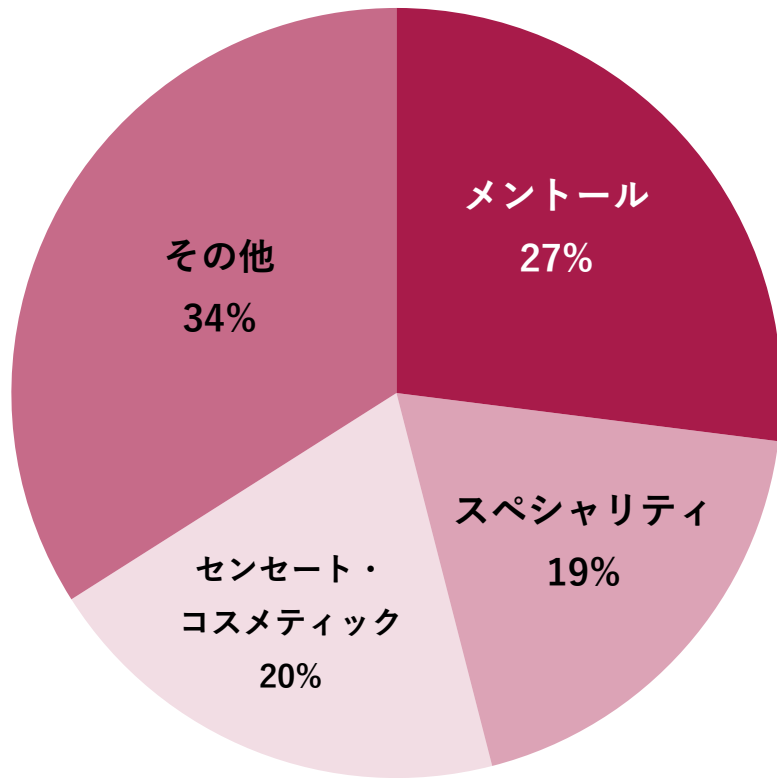
2025年3月期2Q



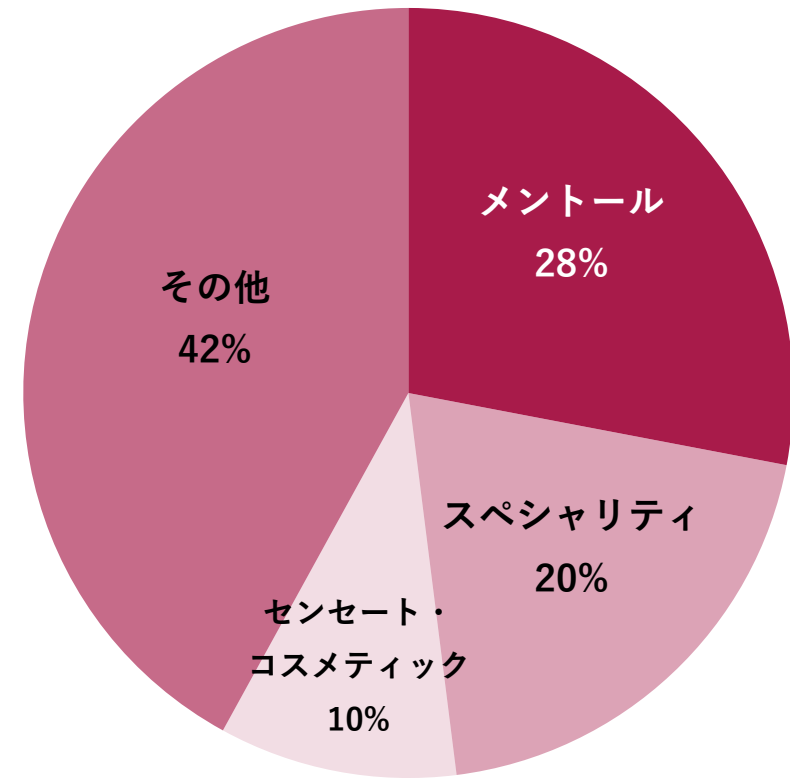
2026年3月期2Q



# アロマイングリディエンス事業 カテゴリ別 売上実績

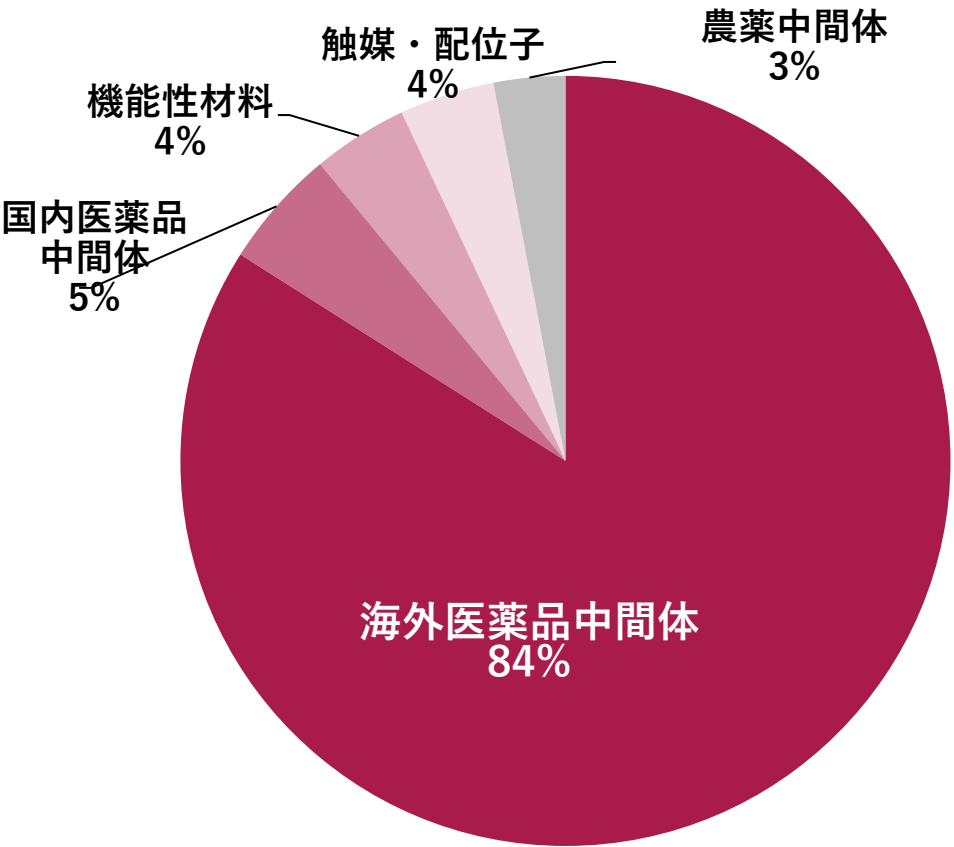


2025年3月期2Q

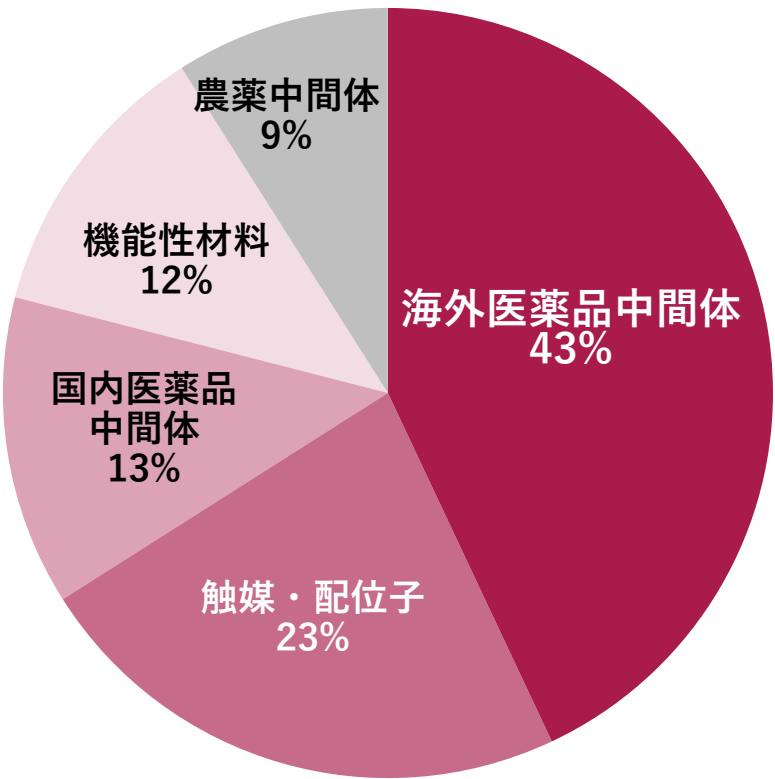


2026年3月期2Q

# ファインケミカル事業 カテゴリー別 売上実績



2025年3月期2Q



2026年3月期2Q